

自由論題

北朝鮮におけるメディア体系と「20 時報道」

鴨下 ひろみ（かもした ひろみ）

金正恩時代は金正日時代に比べ、宣伝扇動の手段として映像を積極的に活用することで、自身の政治的正統性を補強し、政権基盤を強化してきたと考えられる。金正恩はなぜ映像メディアの活用を必要としたのか。研究報告では金正恩の映像メディア戦略を考察する上で、北朝鮮のテレビ報道におけるメインニュースに位置づけられる「20 時報道」に着目する。20 時報道は最高指導者の動静報道に加え、党が推し進める路線や政策、大衆動員の活動、思想教育の重点などが網羅的に示され、北朝鮮が重要視する政治宣伝物の「ショーケース」となってきた。また、経済状況や住民の生活状態など北朝鮮社会の変化を映像を通じて定点観測する上でも、20 時報道の分析は不可欠だ。金正恩時代に入って生じた 20 時報道の変化を映像公開のタイミングや報道量等から分析し、金正恩が映像活用を必要とした局面とその理由、政権運営にもたらされた効果などを読み解く。また、そこから金正恩の統治スタイルとその変化についても検証する。